

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
04

2009
皐月・水無月

2009年度事業方針

拳士増加対策と金剛禅教団の充実

誕生！ パソコン利用地区推進委員

パソコン使って手続き簡単

拳士増加対策と 金剛禅教団の充実

社会現状と当組織の現状を踏まえ、少林寺拳法グループの組織機構改革施策の
最中、当教団としての2009年度の事業方針、計画を以下のとおり実施します。

金剛禅総本山少林寺



私たちの組織は、「半ばは自己の幸せを 半ばは他人の幸せを」の信念を持って、行動できる人を育て、平和で豊かな社会づくりに貢献する」を理念とし、人づくりと理想境建設を目的とした教団です。 昨今、人間の生き方の規範喪失、職業倫理の低下、年代に関係なく人心の荒廃が叫ばれる状況にある中で、金剛禅教団としての社会的役割はますます重要なものとなってくると思います。

このような社会現状と当教団の現状を踏まえ、2009年度事業方針を定めました。

2009年度事業方針

- (1) 少林寺拳法グループのビジョンの下、より一層の少林寺拳法の価値と信頼性の向上を図る。
- (2) 組織機構改革に基づく作業を迅速に実施する。
- (3) 本山ならびに、道院の布教体制・環境整備により、更なる門信徒の教化育成、布教の充実を図る。

重点実施項目

上記方針に基づきまして、次の5つの事業を、重点実施項目として推進していきたいと考えます。

- (1) 継続的な門信徒数の増加推進と、教団の拡充、強化を図る。
- (2) 若手(後継)道院長の育成と、組織活性化対策を図る。

(3) 組織機構改革に向け、グラウンドデザインに基づいた組織・手続整備を図る。

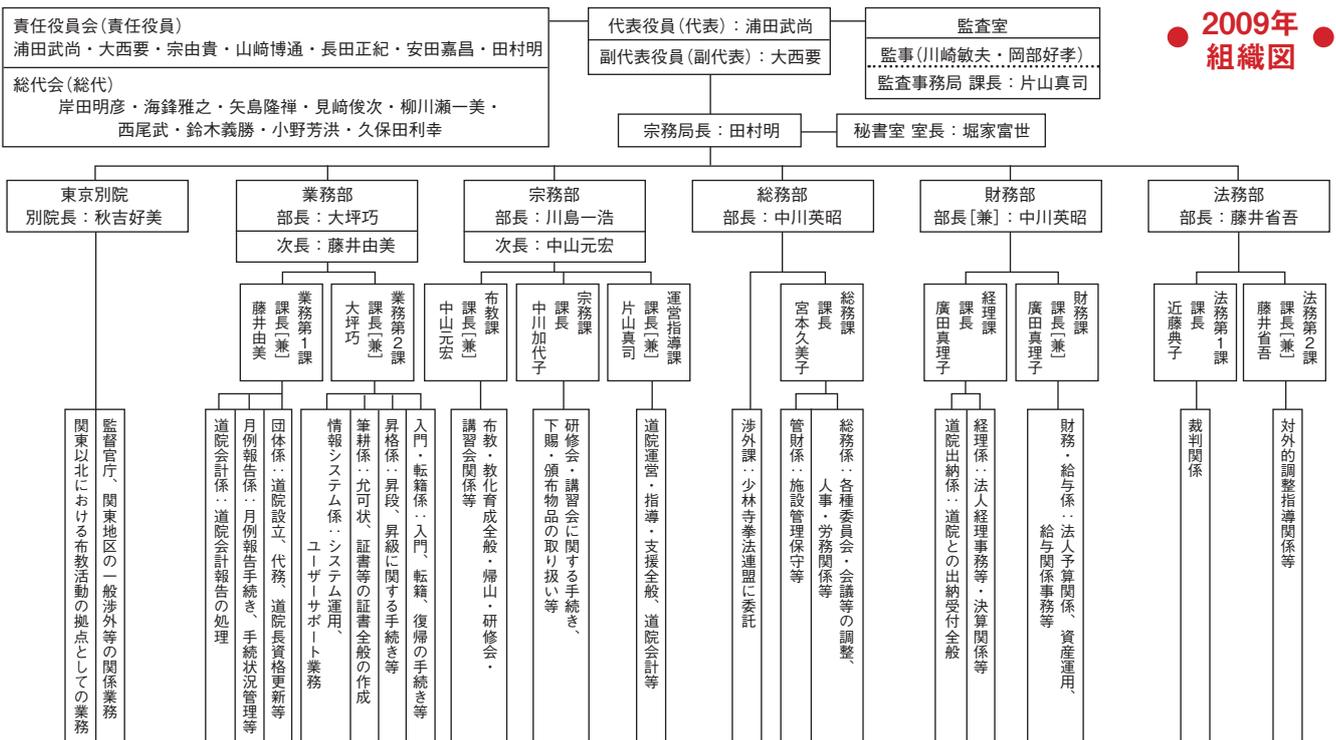
(4) 少林寺拳法の価値と信頼性の向上・VIBの継続。

(5) 開祖生誕100周年に向けての事業を策定する。

以上、年度方針と重点実施項目を述べさせていただきます。詳細は道院長研修会でお伝えしたいと思います。

皆様、現場において、のびのびと布教・教化育成ができる環境を整備していくことが、本山の務めです。そして、開祖の志を胸に、道院長・幹部拳士・本山職員が一丸となって、金剛禅運動を通じて社会貢献のお役に立ちたいと願っておりますので、何とぞお力添え賜りますようお願い申し上げます。

2009年 組織図



誕生！ パソコン利用地区推進委員

パソコン使って 手続き簡単

パソコン利用地区推進委員は、金剛禅総本山少林寺・財団法人少林寺拳法連盟の両法人に属するものですが、道院会計のサポートを考慮して、各教区より道院長もしくは道院の幹部拳士をご推薦いただきました。2009年4月1日より具体的に次の役割を担っていただいております。



パソコン利用地区 推進委員の役割

委員の役割は以下の2点です。
①事務手続きのパソコン利用所属を増やす

まだパソコンで事務手続きをされていない所属に、パソコン利用の呼びかけをお願いいたします。

②パソコンで事務手続きをされている道院長・拳士のサポート
すでにパソコンで事務手続きをされている道院長・拳士に、パソコン操作についてのサポート・アドバイスをお願いいたします。

事務手続きのパソコン 利用推進について

4月1日現在、全国で1720所属(60%)が、パソコンで事務手続きをされています。「手続きが楽になった」「最初は不安だったが、知り合いの道院長に教えてもらおうと、意外と簡単だった」などの声をよく耳にします。パソコンを利用されることで、手続きの負担を少しでも減らしていただきたいと思えます。また、パソコンでの事務手続きについての勉強会などをご計画の場合は、本山の専門スタッフを講師として派遣させていただきます。

山形県のパソコン 利用率が100%になりました！

4月1日付で、山形県の全所属がパソコン利用となりました。山形県の道院長の皆様、ありがとうございました。パソコン利用地区推進委員の皆様のおかげとしては、引き続きパソコン操作などのサポートをお願いいたします。

委員名簿

北海道	阿達美恵子、齊藤敏也	山梨	福沢昭文、平井史郎	広島	小濱健一、瀧本保夫
青森	櫻田達夫、高野誠一、棟方昭二	長野	小林一夫、鈴木英仁	徳島	藤岡操
岩手	菅原利則、中川景季	岐阜	高橋則雄、平下俊彦	香川	石川美貴雄、井出栄助
宮城	岩城泰仁、佐久間潤	静岡	青島勉、村松立比呂	愛媛	高坂正治、田中豊
秋田	石山雅明、小林佳久	愛知	辻村吉幸、牧村昌司	高知	白川和男、中町友典
山形	海鋒雅之、鈴木信一	三重	松浦茂光	愛媛	宇都宮俊二、木戸英利
福島	伊藤寿弘、菊地孝行	滋賀	濱崎哲也、日紫喜良守、南出哲男	福岡	濱田雅士
茨城	中山朝勝、米地明彦	京都	藤岡学、村田昌治	福岡	相田忍、梅野清嗣
栃木	荒井照通、野口雅司	大阪	渡辺浩志	福岡	梶島貞幸、木野日太
群馬	原田幹男、松川学	兵庫	川上鐘成、富澤伸二、山本進	佐賀	梶和明、久保田秀利
埼玉	新井正行、小嶋武志	奈良	生田久人、白井謙司	長崎	柴田徹、竹熊浩一郎
千葉	草野智広、小山勝久	和歌山	川嶋保男、木村恵昭	熊本	丹羽高広、前畑健治
東京	藤田竜太、古内宏明	鳥取	飯塚久雄、坂口勝浩	熊本	中村智宏
神奈川	古谷進	島根	中野多恵	大分	西田智宏
新潟	五十嵐好一、三枝勝巳、安田恒雄	岡山	木下将、高田和典	鹿兒島	相田忍、梅野清嗣
富山	大澤一裕、鎌田陵人	山口	田淵昭典、長坂徳久	宮崎	梶和明、久保田秀利
石川	菅井和明、杉田康明	山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
福井	牧野輝男	山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
	東山忠裕、勇伊泰治	山口	木下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
	新谷成智、辰巳隆男	山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
	畑山光夫	山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
	玉村好、渡辺竜彦	山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	山下将、高田和典	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	田淵昭典、長坂徳久	鹿兒島	梶和明、久保田秀利
		山口	津田勝、土堂誠	鹿兒島	

千葉県教区研修会

少林寺拳法を丸ごと
行ずる効果

2月8日、千葉市の三井ガー
デンホテルにて、千葉県教区と
しては初めて教区研修会が開催
されました。県内の道院長と僧
階を有する幹部拳士が、スーッ
姿に輪袈裟、念珠という身なり
で約120人が参集。まず全員
で鎮魂行を行ったあと、講師と
してお越しいただいた矢島隆禪

関東教区総代より、「金剛禪の
行法 少林寺拳法を丸ごと行ず
る効果」というテーマで、講義
をしていただきました。

矢島総代は、「薬を飲むとき
は効能を読んでから飲むもの。
少林寺拳法の修行もその効果を
知ってやるかどうかで、効果は



違う」また「薬は丸ごと飲むから
効く。少林寺拳法は金剛禪の行
法も丸ごとやるのが肝心」と
いった内容を時折、ダジャレも
交えながら非常にわかりやすく
お話ししていただきました。

講義後の質疑応答でも、非常
に熱心なやり取りが行われ、終
了予定時間を超過してしまっ
ど有意義な研修会となりました。
(藤田竜太)

宮城県教区

少林寺拳法の奥深さを
実感した2日間

2月21日から22日の2日間に
わたり、秋保グランドホテルに
て2008年度少林寺拳法宮城
県教区研修会が仙台南道院の担
当で行われました。

今回の研修では、日ごろ各道
院で練習しにくい圧法、整法を
中心とする指導法についての研
修ということで、各道院から多
くの拳士たちが参加しました。
講師には、坂東芳徳島道院道
長をお呼びしました。坂東講師
の巧みな話術と圧法を活用して
の柔法の指導は、今までに感じ
られなかった驚きと少林寺拳法
の奥の深さを改めて実感する機
会となりました。

坂東講師のコツを少しでも見

逃すまいと、周りには人垣がつ
くられ、その中心から技を掛け
られた拳士の悲鳴と周囲の驚嘆
の音が響き渡りました。技法の
すばらしさだけでなく、坂東講
師のお人柄なのか、多くの拳士
の心を捉える、とても有意義な
研修でした。

「人、人、人、すべては人の
質にある」という開祖の言葉が
改めて心に染み込むばかりでな
く、拳士一人ひとりの少林寺拳
法にかける思いが、秋保の温泉
の源泉も凌駕するほどの熱気と
なっており、実りある2
日間でした。(田代正則)

各地の新春法会

栃木県教区

1月17日、宇都宮東日本ホテ
ルで栃木県教区新春法会を開催
した。年の初め各地での行事が
行われている中、ご多忙中にも
かかわらず、栃木県少林寺拳法
連盟会長をはじめ御来賓の方々
のご参加を頂き、司会・高野秀
樹上河内東道院道院長の発声に
より厳かに式を執り行った。

聖句、誓願、礼拝詞、道訓、
信条を全員で唱和し、門信徒代
表として河面豊光栃木足利道院
道院長による決意表明、御来賓
の各先生方のご挨拶を頂き、導

師・東花一郎宇都宮東道院道
長の法話により各人、勇気と希
望と決意を新たにしたい意義ある
新春法会を終了した。ご来賓の
先生方を囲み、親睦を図り更な
る団結のため、幹部拳士も含め
和やかに新春の集いへと移行。
新春法会と新春の集いは開催時
間が短すぎるとの感覚を持つほ
どの充実した会合となった。

熊本県教区

1月17日、ホテルニューオー
タニ熊本で各道院長および幹部
拳士34人が集まり、厳かな雰囲気
の中、熊本県教区新春法会が
行われました。

有村利雄熊本県教区長の法
話、熊本東南小教区長の桑原智
英熊本健軍道院長の門信徒代表
挨拶を通じ、我々が今何をすべ
きか目的を新たにできた時間
でした。(水窪慎一)

石川大聖寺道院

誕生会という名を
借りた金剛禅法話

石川大聖寺道院では、年に4
度(3か月に1度)、「誕生会」を
します。誕生日拳士には道院か
ら、ショートケーキを2個プレ
ゼントします。この2個には大
きな意味があります。

誕生日の拳士を前に、拳士・
保護者全員が車座になり、たく
さんお菓子を並べ、口も動か
し、目と耳をしっかりと働か
せ、誕生日(今生きてる命)につ
いて話をします。

「この世に生を受け、誕生の
日を無事迎えることができたこ
と、それは両親が一生懸命育て
てくれたおかげのほか何物でも
ありません。両親に感謝をす
る日、それが誕生日なのです。
この2個のケーキは誕生日を迎
えた君たちから親への感謝の気
持ちとしてください。しかし、
プレゼントされた親は、『あり
がとう、私たちはいいから食べ
なさい』とケーキをくれるで
しょう。親が子を思い、子が親
を思う。そうして命がつながっ
ていくのです。お父さん、お母
さんから授かった命の源は、
今までつなげてこられたご先祖
と、日々口にするお菓子、肉、
野菜、魚などの食べ物(命)を
頂いたおかげです。目に見えず
とも感じることでできるすべて
のもの、すなわち、『ダーマ』の
働きによって今を生かされてい
ることをしっかりと感じてほし
い」と。ダーマ学習は難しくと
も工夫すれば楽しい学習になる
ようです。(大家正己)

誕生会という名を借りた金剛禅法話



嵩山少林寺に 問法修学した日本人僧

嵩山少林寺といえは、昭和の初期、開祖が白衣殿の前にたたずまれ、少林寺拳法を発想された地である。

その少林寺に元の時代、いくつかの足跡を残した古源邵元という日本人僧がいる。邵元は1295年(永仁3)越前に生まれ、若くして鎌倉や京都の禅寺に参じ1327年(嘉暦2)入元した。江南をはじめ中国の禅林各地を歴参しついに嵩山少林寺に至ったのである。少林寺は唐末以後、廃仏と戦禍にまみれ荒廃していた。再び少林寺を興したのは元の時代、萬松行秀の系統、雪庭福裕の門下によってであった。

今、寺の方丈室前に鉄鐘が掛けてある。鐘胴の刻字を読めば、「書記邵元」住持嗣祖傳法沙門息庵」とある。息庵とは邵元が少林寺に師事した雪庭福裕門下の第15代住持息庵義讓のことである。邵元は書記、首座と僧階を昇任し息庵に深く関わりながら共に禅宗の復興に寄与していく。碑刻石の撰文や堂塔を創建し、規

範の維持に努め、問法修学を同じくしたのである。そして在元21年の巡錫を終え、邵元は1347年(貞和3)帰朝した。長年、広遠なる求法の旅であった。

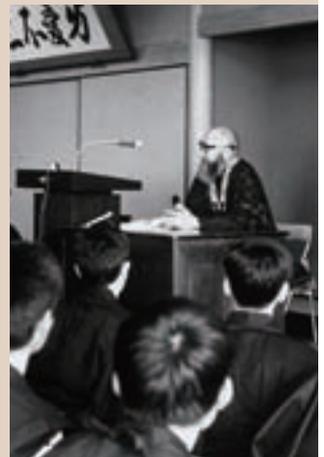
1973年(昭和48)に開催された河南省画像石碑刻拓本日本展示会において、中国文学者の郭沫若は、邵元撰文の息庵禅師碑に詩を寄せた。

「息庵碑是邵元文 求法来唐不仁讓 願作典型千万代 相師相学倍相親」(息庵の碑は邵元の文にして、法を求め来唐せしにより仁に譲らず、願わくは典型として千万代、相師き、相学び、より相親しまん)

我々が常々唱和する「同志、相親しみ、相援け、相譲り」という信条がふと浮かんでくる。風雪に耐え六百数十年余の時を経て存続する少林寺の鉄鐘や碑刻石から、禅宗の継承に共に邁進した日本僧邵元と中国僧息庵の強烈なエネルギーを感じ取ることができ、学ぶこともまた多い。かつて開祖はこれらの足跡をおそらく観ておられたことであろう。

開祖語録 ダイジェスト

1980年2月
受験者に対する法話



人間の心を変えるのが本当の宗教です。人間の心を変える以外に、世の中をよくすることとはできないのです。で、私たちが今やっているこの金剛禅の教えは、これは根本仏教だ。これがすたるとは、恐らくないでしょうね。

結果としてそういうように子供たちを追い込んでいるのが今の学校、社会です。

このごろの子供が悪くなった原因を、学校や社会のせいにしてます。確かに小学校、中学校のときから受験地獄はじめ競争ばかりで、友だちを敵と見てる。受験のとき友だちが病気で休んでくれたら、オレが入れるだろう。いい学校に入りたい、大きな会社に就職したい、そのためには友だちの不幸を願う。

どうだ、君たちだけでも自分の生き方を変えてみませんか。一人では生きていけない人生です。みんなと仲よくして、頼ったり、頼られたり、してあげたり、してもらったり、そして喜び合うような人間関係をつくりたい。いい友だちを、やつぱりつくりたいね。いい先輩を、いい後輩をつくりたい。

どうだ、友だちをつくれる生き方、き方を、ひとつ本気で考えようじゃないか。

どうだ、友だちをつくれる生き方、き方を、ひとつ本気で考えようじゃないか。

友だちをつくれる生き方を 本気で考えようじゃないか

2009年2月度 認証

●新設

埼玉川鶴道院 古賀 秀晴
 神奈川嶽之内道院 小磯 信一
 厚木南道院 諸星 敏廣
 福井成和道院 松野 良弘
 大津坂本道院 岡部 弘志
 大阪谷町道院 釣田 一夫

西脇南道院 是常 健太郎
 福岡粕屋東道院 園田 進
 きりしま高崎道院 立山 慎
 鹿児島川内北道院 山本 久雄

●交代

福島瀬上道院 氏家 淳
 東京築地道院 中村 敏之

多摩桜ヶ丘道院 保坂 知宏
 海老名道院 深澤 宏
 浜松西道院 松下 知司
 愛知丹陽道院 秋田 雅之
 大阪平野道院 川添 浩史
 大阪摂津峡道院 中野 幸一
 神戸緑台道院 荒川 宏史

僧階昇任者

中導師

■2009年2月1日付

和久井 亮輔(新潟三条道院)

佐野 晋一(富士北道院)

■2009年2月22日付

古賀 秀晴(埼玉川鶴道院)

中村 敏之(東京築地道院)

小磯 信一(神奈川嶽之内道院)

諸星 敏廣(厚木南道院)

深澤 宏(海老名道院)

秋田 雅之(愛知丹陽道院)

岡部 弘志(大津坂本道院)

釣田 一夫(大阪谷町道院)

川添 浩史(大阪平野道院)

是常 健太郎(西脇南道院)

荒川 宏史(神戸緑台道院)

立山 慎(きりしま高崎道院)

山本 久雄(鹿児島川内北道院)

■2009年3月1日付

江川 晴夫(専門学校禅林学園)

重乃 正(専門学校禅林学園)

田中 健之(専門学校禅林学園)

富田 雅志(専門学校禅林学園)

お布施

▷東京都教区 10,000円
 ▷神奈川県教区長 佐藤 一司 10,000円
 ▷佐賀千代田道院 武藤 博志 10,000円
 ▷福島中央道院 尾形 省二 50,000円

▷北条東武道院 設立40周年記念 50,000円
 ▷埼玉北浦和道院、埼玉幸手道院 小坂 100,000円
金剛禅総本山少林寺改修基金
 ▷各務原東道院 青山 昌伸 100,000円

2009年度僧階補任講習のご案内

「布教の意義とは」「金剛禅布教者の使命とは」「一般・少年門信徒を正しい方向へ導くために、具体的にどのように指導したらよいか」「儀式における導師の立ち居振る舞いについて」などを丁寧に講習します。道院長の皆様におかれましては、ご自身の研鑽に、ぜひ受講してください。また、道院に在籍されている門信徒(拳士)にも、本講習会のご案内をお願いいたします。申し込み方法など、詳しくは3月度全国通達をご覧ください。皆様のご受講をお待ちしております。

	中導師・大導師(前期)	少法師	中導師・大導師(後期)
開催日	6月14日(日)	9月22日(火・祝)	11月1日(日)
時間	6:00~15:00	8:30~13:00	6:00~15:00
場所	本山	本山	本山
申込締切	6月1日(月)	9月8日(火)	10月19日(月)

5月の本山行事

9日(土)~10日(日)

道院長研修会1次

10日(日) 開祖忌

16日(土)~17日(日)

道院長研修会2次

24日(日) 定例昇格考試、帰山

30日(土)~31日(日)

道院長研修会3次

6月の本山行事

6日(土)~7日(日)

道院長研修会4次

14日(日) 僧階補任講習(中導師・大導師)前期

28日(日) 特別昇格考試、

認証式

報告 古川事件損害賠償請求訴訟裁判について

元滋賀大津・元滋賀湖南道院 道院長 古川 亘(元大津スポーツ少年団部長、元堅田高校少林寺拳法部部长、元大津商業高校少林寺拳法部顧問、元大津市少林寺拳法連盟 理事長を兼ねる)、元大津中部・元湖南草津道院 道院長 古川 恵子夫妻(いずれも2007年1月13日付にて金剛禅総本山少林寺から破門、財団法人 少林寺拳法連盟から除名)に対する道院運営費の不正流用などに関する損害賠償請求事件訴訟は、大津地方裁判所の和解勧告により、古川氏らが当方原告に1400万円を支払う内容の裁判上の和解により終了しました。

当方の主張の大部分を容れた和解案による解決ですから、当方の勝訴といえます。

事件経緯: この事件は、本山が、古川夫妻に対し、同人らが公金である道院運営費を個人資産の取得(建物の増改築など)のために不正に流用した金額(1464万5500円)の返還を求めて、2007年11月に大津地方裁判所へ提訴したものです。

ご注意: 古川 亘が主宰する団体は、少林寺拳法とはまったく関係のない団体ですので、引き続きご注意ください。また、ご不明なことがありましたら金剛禅総本山少林寺へ問い合わせください。

問い合わせ先: 法務部 鈴木

TEL.0877-33-1010 内線143

FAX.0877-33-1041(法務部直通)

E-mail:info@shorinjikempo.or.jp

少林寺拳法解体新書

少林寺拳法創始60周年を記念して編集された歴史的映像資料、『少林寺拳法解体新書』は、開祖の動画や総裁のドキュメント、法話研究・演武研究・法形研究など、盛りだくさんの内容で大好評をいただいております。

(売価12,600円税込み / DVD4枚組み / 360分)

お申し込みは少林寺拳法連盟事業部にて承っております。



宗務局長 田村 明

vol.4 出会い

清風

プロ卓球選手の四元奈生美が
四国八十八か所を歩いていてる番
組があった。

八十八か所巡りの旅は、弘法
大師とともに心身を磨き、88の
煩惱を一つ一つ取り除き、自分
自身を見つめ直す修行の旅だそ
うだ。御利益があるかどうかは
わからないが、中に出てくる人
たちの話を聞いてみると、必ず
「自分を見つめる」というような
ことを話している。

四元は途中でいろいろな人と
出会う。四国遍路は、弘法大師
が取り持つ人との出会いなのだ
ろうと感じた。しかも必ず温か
な触れ合いに満ちあふれてい
る、人間の優しさを感じる出会
いなのだろう。自らの足りなさ
を感じ、今までとは違った自分
になれるのであろう。

我々の道に置き換えてみる
と、宗道臣を媒体とした自分と
他人との出会いがそれである
う。自己確立と自他共楽の教え
の下、自分を取り巻く人々との
出会いである。優しくあると
きには厳しく、しかも施しても
らう旅ではなく施して歩く旅で
あろう。我々は、その教え
(ダーマ)に触れ自らの可能性を
信じる旅に出ているのではない
だろうか。

一期一笑



イラスト/大原由軌子

「翌檜」……あすなる

今日もまた、練習場の外にも
聞こえる甲高い子供たちの気合
い……息子二人と入門してはや
1年半がたちました。最初、恐
る恐る参加してどうしたらいい
のかわからなかった息子たち
が、今ではすっかり溶け込み仲
間と走り回っている姿は、感動
以外の何物でもありません。

東京都大会に加えていただ
いた息子は、未熟ながらもものお
じせず堂々と演武をこなし、自
信がついたのかふだんの生活で
も責任感ある行動をとり、保育
園でも小さい子の面倒を積極的
に見るようになりました。

投稿大募集 道場や拳士のちょっといい話を募集しています。
※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入くだ
さい。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があり
ます。原稿の選択はご一任ください。〒170-0004 東京都豊島区
北大塚2-17-5 東京別院 広報誌担当宛 TEL.03-5961-1400
FAX.03-5961-1401 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

また、1年たつても結手から
の開足中段構えさえ満足にでき
なかつたもう一人の息子は、あ
る日を境に天地拳第一系をおぼ
つかないながらも皆と一緒にで
きるようになりました。

願わくは「今日は昨日より、
明日は今日より一歩でも違った
自分になるんだ」とイメージで
きる少林拳法の精神が技術を
越えた信念として、彼らにとつ
て大いなる行動規範となること
を祈るばかりです。一拳士とし
ての私もまた、そんな彼らの一
生懸命な態度を見習いながら精
進し、その精神を自らの血肉に
変えていきたいと思えます。
(東京辰巳道院・49・半澤正人)

File.4 宗務部布教課 (2009.4月現在)



本山見える課

事務局紹介
のコーナー

布教課では、儀式行事や道院長研修
会、各種講習会の企画、立案、実施を
中心とした業務に取り組んでおりま
す。2009年度は、新入職員も1名増
員しました。

魅力ある行事づくりと、僧階の活性
化の取り組みなどを通じて、全国の道

院における布教活動のサポートをさせ
ていただきたいと、課員一同燃えてお
ります！

講習会や帰山行事の際に、多くの拳
士の皆様が本山に帰ってこられますこ
とを、心よりお待ちしております。

片手門投



Goka ken, Katate kannuki nage

こかけん かたて かんぬきなげ
五花拳 片手 門投

宗門の行としての少林寺拳法

片手門投は、五花拳第三系 ^{びやくらん}白蘭に属する仕掛けの門技である。少林寺拳法の法形には仕掛け技が少なくないが、いたずらに我から先に仕掛けるのではない。仕掛け技は相手の技を未発のうちに察知し、これを制し、圧服する技法である。武の本義に従って、人と人との争いを止め、人を生かして我も生き、平和と文化に貢献する、和協の道を歩みたい。

撮影/近森千展 文/飯野貴嗣 演武者/守者:川島一浩 正範士七段 攻者:飯野貴嗣 大拳士六段

表紙 ^{かねもとよしとし}金本孔俊/6月、アラスカ州アンカレジから車で南へ約3時間。キーナイで出会った風景。【プロフィール】1954(昭和29)年、兵庫県生まれ。88年、フォトスタジオ「ゴールド」設立。94(平成6)年からアラスカでオーロラを撮影し、ライフワークとして情熱を注ぐ。写真集に『神秘アラスカ』(京都書院)『ALASKA』(青幻舎)、『聖夜 ALASKA-Holy,Night』(青幻舎)がある。神戸六甲道院、正拳士四段。http://www.studio-gold.com

編集後記▶「一期一会」——、新入学、新入社、新年度がスタートし1か月がたとうとしている。人間社会における人との交わりは欠くことのできない大切なことだ▶自分もこの時期になると、開祖との出会いにより人生観を教わったことを思い出す。他者への思いやりや自分に対しての厳しさ等々。^{えにし}「縁」を今更ながら感じる。▶5月は開祖を偲び、世のため人のために何か役立つことを実践する「開祖デー月間」である。全国各地で拳士の活動が期待される。(あ)

発行人:浦田武尚 発行所:金剛禅総本山少林寺 〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 ☎0877-33-1010 http://www.shorinjikempo.or.jp
編集人:秋吉好美 企画・編集:金剛禅総本山少林寺東京別院 〒170-0004 東京都豊島区北大塚2-17-5 ☎03-5961-1400 e-mail aun@shorinjikempo.or.jp
金剛禅総本山少林寺広報誌「あ・うん」2009年5月1日発行(奇数月1日発行)通巻第4号 印刷・製本:(株)ブル・ドック
※本誌の発行に掛かる費用には、SHORINJI KEMPO UNITYによるライセンス事業の収益金が活用されています。

http://www.shorinjikempo.or.jp/aun/index.html では、誌面に掲載し切れなかった記事、写真のほか、動画などもご覧いただけます。



SHORINJIKEMPO